

学位論文審査の結果の要旨

氏名	劉海濤
審査委員	主査 谷口憲治 ㊞ 副査 伊藤勝久 ㊞ 副査 糸原義人 ㊞ 副査 小林一 ㊞ 副査 古塚秀夫 ㊞
題目	中国における農村資金需要に対する小額金融の役割に関する研究
審査結果の要旨（2,000字以内） 本研究は、1990年代から現代までの農村小額金融を分析対象とし、その農村資金需要に対する役割を、農業産業化経営の進展による農村資金需要と農業経営の変化、農村小額金融組織の展開条件、農村金融組織の企業形態的展開といった三方面から分析したものである。 農業産業化経営の進展による農村資金需要と農業経営の変化については、中国西北乾燥地域において、環境保全策と西北部経済発展を両立させようとする農業園区方式による舎飼肉用羊飼養を対象にして考察を行った。その結果、第一に、伝統的な放牧飼養は規模拡大に従い環境負荷が深刻になり舎飼が不可欠となり、その実現に向けて園区が設立されていることを示した。第二に、この園区については、西北部に多い農民主導形態となり、責任農家による管理を行い、政府の支援を受けている組織的特徴と肉用羊の繁殖・肥育の一貫経営を行う機能的特徴を明らかにした。第三に、主に現地調査を行うことにより繁殖飼養と肥育飼養、各飼養における地域のブランド肉用羊「灘羊」と他種羊、羊飼養と耕種に関する経営状況を比較して、乾燥地域の農地取得の困難性から、環境保全と経済向上とを両立させる方法として園区による舎飼飼養が実施されていることを示した。 小額金融組織の展開条件については、中国における経済発展の遅れている内陸地域に位置する寧夏回族自治区塩池県の小額貸付組織の事例を取り上げて、まず、存立条件を分析した。そこでは、既存の農村信用合作社、農業銀行などの農村金融機関は機能しておらず、そのため農村金融市場の資金需要に対して、自治区・県政府および国際NPO組織の援助で「塩池県小額貸付センター」という協同組合的性格を持つ自生的な農村小額金融組織が設立された。 小額センターの組織構成と機能分担面では、非営利部門である技術支援部が存在し、店舗を持たずに実務担当層は常に組織化された農家貸付村小組、村大組と接触しており、貸付に際しては貧困農家に連帯保証をさせる一方、小額センターによる識字率向上活動、技術指導活動により、農家の信頼を高める活動も行っていた。そうした活動の結果、小額センターはほぼ100%の資金回収を実現しながら、経営目標である貧困克服の役割を果たしており、こうした活動への政策的支援を受けることで、その持続的経営が可能となっていることを明らかにした。 農村金融組織の企業形態的展開については、中国における急激な経済発展に従い、農村金融市場が	

変化しており、その主導的組織である農信社に対して商業化改革が行われている。これは、中国農村金融組織の動向からみると、最大規模の中国農業銀行が1978年の改革政策により、「商業銀行法」の適応を受けることにより、農業部分の政策実現を図る国有企業から、都市産業部門への投資も可能となる国有商業企業となり、2009年1月の株式化の容認により、農村金融組織の性格は一層弱まるこ中で行われたものであること、ただ、農業担当として独自の「三農金融発展委員会」が創設され、非農業部門投資により利益を追求する機能と「三農」を支援する機能という二つの経営目標が存在することとなっていることを示した。具体的には、寧夏回族自治区のような経済発展の遅れた地域における商業化改革を黄河銀行を事例に考察し、農村資金需要に対して農信社を存続させつつ、農信社が出資者となって農村商業銀行を設立し、都市と農村の資金需要を応える機能を果たしていることを示した。こうした地域個性をもつ農村商業銀行の展開条件としては、中央政府の政策緩和、農信社の農村商業化条件、地方政府の行政支援が必要となっていることを明らかにした。ただ、全国の農村商業銀行と比較してみると黄河銀行は経営規模が小さく、経営効率が低いレベルに位置していることから、農業支援のために外的な税金免除、補助金の支払いが行われているが、この過程を経営行動の面から見ると経営状況の改善が進み、結果として以前より「三農」に多く支援していることを示した。

以上、この考察により中国経済の発展により規制緩和で農村金融組織が商業化改革で農業支援機能が低下するものの、効率化とともに「三農」への支援といった二面性を持っていることを明らかにした。研究蓄積が少なく、経済発展に遅れている西北内陸部における環境保全と農業経営の調和的発展方法、そのことを生産・生活一体となった農村小金融が促進していることを実証的に明らかにし、中国農村の新たな経済発展方法を示唆したもので、大変高く評価でき、学位論文として十分価値があるものと判断した。